

※以下、神奈川芸術劇場は「KAAT」、神奈川県立音楽堂は「音楽堂」とする。

公演名／会場	ご意見
神奈川フィルハーモニー管弦楽団と巡る県内オーケストラコンサート／県民ホール（会場：伊勢原市民文化会館）	・選曲と構成がとても良かったと思います。お子さんから大人まで十分に楽しめる内容でした。特に「20世紀フォックスファンファーレ」からの「スターウォーズメインテーマ」は感動しました。 ・クラシック音楽への入門編ではなく、オーケストラの音の魅力を楽しんでもらうという企画の意図が十分に伝わった内容でした。
藤沢市民オペラ 連携事業 オペラシリーズ モーツァルトオペラ《羊飼いの王様》全2幕／県民ホール（会場：藤沢市民会館）	12歳で初のオペラ作曲を行ったといわれる天才モーツァルトの初期オペラ作品。国内外で公演される機会がなかったものを、ホールオペラとして上演。初期作品はある意味習作的なものとされてきたが、音楽的な技巧も、曲の運びも非常に巧みで、聴きごたえがあった。これは、歌手やオケの完成度にもよると思う。素晴らしい公演を堪能できた。藤沢市民会館は、キャパ的に1400席弱で、今回のオペラ上演は土日2回にわたって行われたが、2回目の日曜マチネもほぼ満席に近かった。市民オペラの活動歴史のある藤沢での開催もよい選択だったように思われる。ブラボーコールも何度もかかり、観客も満足したと思う。価格面でもリーズナブルで、若い世代への配慮も評価できる。 ・コンサート形式でしたが、歌手の方も神奈川フィルもとても素晴らしく、モーツァルトの音楽を堪能できました。字幕付きの上演は、初心者には親切で良いと思います。 ・初演から250年の節目というメモリアルな話題性が多いオペラファンに支持されたのだと思います。公演後のアフタートークでの園田さんや砂川さんのお話はコアなファンのみならず、私のようなオペラ初心者にも十分楽しめるもので、他のオペラ公演へ行きたくなる内容でした。 ・モーツァルトのオペラでもなかなか上演されない作品を、抜群のキャスティングで企画され、関連企画や当日のアフタートークも含め、充実した構成となっていた。 ・技巧的難易度が高い作品だが、コロラトゥーラの二重唱等、随所の聴かせどころがどれも素晴らしく、引き込まれました。 ・藤沢市民オペラとの連携事業を神奈川県民ホールが実施することは素晴らしい試みである。 ・興味深いキャスティングであったが「アミンタ」の砂川涼子には、やや疑問が残る。 ・演奏会形式が限界だったか。少し残念。 ・神奈川フィルは、素晴らしい演奏を気まかせてくれたが、藤沢市民オーケストラという選択肢もあったのではないか。 ・藤沢市民会館は致し方ないが音響反射板をセットしても響きに欠ける。

公演名／会場	ご意見
グリーンホール相模 大野開館35周年記念 The Sixteen／ 県民ホール (会場：相模女子大学グリーンホール大ホール)	・人間の声のすごさを強く感じました。18名の歌手の方のハーモニーがとても心地よく感動しました。 ・上演機会が多くない音楽でも一流のアーティストの手にかかれば、素晴らしいものになるのだと実感しました。次回はぜひ、オーケストラ入りのレパートリーを聴いてみたいと思いました。
C × JAZZ 壺阪健登 × デューク・エリントン／県民ホール (会場：ラゾーナ川崎 プラザソル)	神奈川県民ホール（公益財団法人神奈川芸術文化財団）C×シリーズの一環としての初ジャズ公演。新進のジャズピアニスト壺阪健登と若手実力派のドラム、ベースを含むトリオによる、デュークエリントンを中心とする構成で、ソロピアノでの演奏や、新作の披露など、充実したプログラムだった。いずれも確かな技術と思想？哲学？を持った若手のアーティストたちで、聞きごたえのある演奏だった。特に、演奏の合間に、自らの言葉でジャズについて壺阪氏が語るのだが、熱い気持ちが伝わってくるようで、とてもよいセッションだった。観客もこの時間と空間を共有することを楽しんでいる雰囲気があり、プラザソルの比較的小さな空間であったこともあいまって、一体感が醸成されていたように思われる。観客層は比較的熟年が多く、ほぼ満席だったが、金曜日の夜なのに若年層が少ないのは意外だった（と思うのは私だけでしょうか。） ・素晴らしいジャズでした。ピアノソロ、トリオと曲によって編成を変えて飽きることなく楽しめました。 ・単なるジャズではなく、デューク・エリントンという軸があったのでとても聴きやすい内容になったのだと思います。奏者の選定も含めて、企画の勝利だと思います。今後もジャズを継続して企画して欲しいです。 ・ホールに入った瞬間に「KAAT」の中スタジオと同じ雰囲気を感じました。ぜひ「KAAT」でもやって欲しいです。 ・C × JAZZ というあらたな企画で、若いトリオの県内ツアーが効果的に発信されている。
KANAGAWA ロックサーキット 「語り継ぐロックの伝説」ADDONE LET'S FUNKY XMAS GIG／県民ホール (会場：大和市文化創造拠点シリウス芸術文化ホール)	・個人的な感想ですが、とても聴きやすいロックでした。1960年代から70年代のブルースロックをルーツにしながら、ラップやファンク等もミックスされ飽きない構成になっていました。ギターの音色はブルージーでリズム隊はタイト、キーボードは的確なアクセント、ツインボーカルも見事でした。リハーサルをしたとはいえ臨時編成とは思えないバンドでした。 ・時期がクリスマスなのでクリスマスナンバーは、やむをえないとは思いますが、ロックファンとしては、このバンドで洋楽のカバー曲が聴きたかったです。（ジミー・ヘンドリックス、ジャニス・ジョップリン、クリーム等）
C×Baroque 大塚直哉が誘うバロックの世界 Vol.5	大塚直義によるC×Baroqueシリーズの最終回。コンチェルトとソナタに焦点を当てたプログラム。これまでのこのシリーズ同様、間奏での大塚氏のミニレクチャーにより、企画の意図だけでなく、バロックの奥深い世界への誘いととも、演者の音楽に対する

公演名／会場	ご意見
～バロックの申し子 たちの成長とその先 ～／県民ホール (会場：横浜みなと みらいホール 小ホ ール)	造詣の深さやパッションを十分に感じ取ることができた。観客も最後までしっかりとバロックの多様な展開を感じさせる音楽を堪能したように思う。このシリーズは、毎回ほぼ満席で、バロック音楽ファンというだけでなく、大塚氏のファンがしっかりついてるように思われ、氏の存在がこのシリーズの成功に果たした役割は大変大きいものと思われる。県民ホールから引き継いだチェンバロ（ハープシコード）を、演目によってはほぼソロで聴くことができたことに加え、ヴィオローネも私ははじめて聴く楽器であったので、非常に貴重な体験となった。演奏時間も休憩をはさんで2時間とリーズナブルで、熟年層の多い観客への負担も少なかったものと思われる。 ・プログラムは、演奏の合間に大塚さんが簡単な説明を挟む形式で初心者でも分かりやすい内容でした。選曲もコンパクトで聴きやすかったです。 ・バロックの色々な形式を紹介するシリーズとして、とても良い企画だと思います。クラシック音楽の入門編としても活用できると思います。ルネサンス～バロック音楽は、聴きやすく楽しいものがたくさんあると思いますので、今後も企画の継続をお願いします。(国別、作曲家別、楽器別等) ・シリーズ最後の公演ということか、満席に客席であった(神奈川県民ホール433席・みなとみらいホール440席)。 ・ソナタとコンチェルトを聞かせることで、バロック時代の協奏曲の誕生を体現させてくれる。 ・なかなか聞く機会がさほど多くない古楽器のコンサートとして貴重である。 ・もしかしたらオルガンを含むバッハ曲もプログラムに含みたかったのではないかな。
KAAT神奈川芸術劇場プロデュース 「最後のドン・キホーテ THE LAST REMAKE of Don Quixote」／KAATホール	気鋭の演出家ケラリーノ・サンドロビッチによる名作ドン・キホーテのリメイク。とはいっても、現実と妄想の錯綜、老年期の最後の冒険？というオリジナルの基本ラインを押さえつつも、かなり大胆な脚色による悲喜劇で、人生の苦さ、不条理も感じさせつつ、現代的に仕上げたものと拝見した。随所に笑いもあり、また、映像と音楽の演出は大胆で、プロジェクションの中に人間が入っていく表現方法も斬新である。演じる俳優たちもいくつもの役を取り換えつつ、熱演であり、堪能できた。公演の後、かなりの観客がスタンディングオベーションで満足度を伝えるなど、大変好感された舞台であると思われる。 ・生バンドを使う演出が素晴らしく、ドラムの最初の音でひきつけられました。演奏が劇全体のライブ感を更に増していました。出演者の皆さんの熱演も良かったです。 ・当日のアフタートークも楽しめました。劇のつくり方や脚本家の苦労などプロセスの一端がわかりました。 ・ドン・キホーテを活かした作品として再構築されている。 ・さらに巧みな演出に仕上がっている。ステージング（小野寺修二）の手腕も伺える。 ・ドン・キホーテの代名詞である風車をモチーフとした舞台美術（松井るみ）の処理とその舞台美術を活かした映像（上田大樹）のコラボレーションが見事に出来上がった。 ・出演者が魅力的なキャスティングである。特に大倉考二の芝居は出色である。

公演名／会場	ご意見
KAAT×TJP（ストラスブール・グランテスト国立演劇センター） 「ダンスマラソンエクスプレス」(横浜⇄花巻)／KAAT大スタジオ	・前半はダンサーの方が常に動き、様々な役を演じ、最期は動きを押さえて、ストーリーを語る構成がとても良かったです。コラボとは思えない一体感を体験できました。 ・ダンサーの方の人数と舞台のスペースがちょうどよく、迫力のある公演でした。 ・海外の劇場との共同制作作業は、様々な可能性を生み出すきっかけとなることを期待したい。 ・トライアウトの内容なども記録として開示されていると良いのではないかな。 ・日本の時代を流行と歌とで遡るのだが、どうも我々の感覚と一致しないところがあり、その時代が知らない演出なのかわざとずらしているのかが違和感として残る。 ・さらに宮沢賢治の「ひかりの素足」にたどり着くことが演出家にとって日本の文化の原点か、美しさの象徴として捉えていたのか、やや疑問が残る。
KAATキッズプログラム2025 「鏡の中の鏡」「わたしたちをつなぐたび」／KAAT大スタジオ	・「鏡の中の鏡」⇒開演前から、お子さん達へのアプローチがあり、自然に入っていけるような工夫がされていました。途中で手拍子を促すなどの参加型の仕掛けもあり飽きさせない内容でした。 ・「わたしたちをつなぐたび」⇒ミュージカル仕立てになっており、お子さんが観やすい内容でした。お子さんが持つ疑問に対して、丁寧に答えていくことの重要性が伝わる内容でした。 ・こども＋おとなペアチケットは、お得感があり良いと思います。実際に親子連れ方が多い印象でした。 ・俳優のムーブメント、美術、衣裳のクオリティが高く、演出もシンプルで子どもにもわかりやすく、優れた専門性があった。 ・チラシで遊べる工夫や歌詞の配布もあり、質が高くかつ子どもたちが楽しめる企画がちりばめられていた。 ・上演時間も約 50 分で子ども向け公演としては適切だった一方で、良質なだけに大人には物足りなく感じた。
KAAT神奈川芸術劇場プロデュース 「未練の幽霊と怪物—『珊瑚』『円山町』—」／KAAT大スタジオ	・「円山町」も「珊瑚」も踊り手の方の動きと役者の方の静の演技と音楽が一体となって素晴らしいプログラムでした。 ・大スタジオの中央にステージを作って、観客の視線をそこに集中させるととても斬新な内容でした。空間を広く使う事だけが表現方法ではない事が実感できました。 ・能のフォーマットを下敷きにした試み。 ・大スタジオの空間が最適。 ・音楽と舞台のマッチングが魅力的。 ・出演者の個性が活かされた公演。 ・当該シリーズの第2弾として実施された公演であり、演劇分野での注目度は高い。 ・能楽のフォーマットを敷衍した音楽劇であり、現代の解釈による夢幻能と呼び得る作品であった。 ・能舞台を模した矩形の舞台設定は、簡素でありながら想像力を働かせる余白を残し、大スタジオの空間に能舞台の静謐さをもたらしており効果的であった。 ・当該企画は岡田利規と KAAT により舞台芸術を革新するものであり、座組を変えな

公演名／会場	ご意見
	がら継続することを期待する。 ・当日配布のパンフレットは読みごたえがあり、観劇の付加価値となっていた。 ・チケット代は妥当な価格設定と言えるものの、時世的には高額であり鑑賞者層を限定する。
KAATEXHIBITION 2025 大小島真木展 あなたの胞衣はどこに埋まっていますか? / KAAT中スタジオ	入場してすぐのプレートを確認してから会場に入りました。様々な形状の展示物が配置されており、そこに光と音がプラスされて幻想的な空間でした。光と音はうまくコントロールされており、ベンチに座っていても気持ちが落ち着くような時間を過ごせました。 ・神奈川芸術文化財団が取り組む「美術展」として大変に魅力的な展覧会となっている。 ・KAAT 中スタジオでなければできない取組であり、舞台演出を取り入れた（舞台美術、照明、音楽など）作品展示となっている。普通的美術館では取り組みにくい稀有な展覧会となっている。 ・最終日の張山しし踊りを拝見したが、美術展と一体となり、相乗効果を引き立てるこれも稀有な取組になっていたと考える。 ・もう少し会期を長くすることも結果であるが望ましかったように思う。 ・展示の一部が1階アトリウムにはみ出すことも、関心のない県民をインキュベートする仕掛けになっていたように思う。可能な範囲で今後も取り組んでいくことが期待される。
KAAT×城山羊の会 「勝手に唾が出てくる甘さ」 / KAAT中スタジオ	・オープニングの歌の歌詞がステージ上に表示されているのは良かったです。プログラムのテーマなのかなと思わせる仕掛けでした。登場人物が多くないのも観やすいと思いました。アフタートークも興味深い内容でした。一見アドリブかなと思わせるセリフやセリフのかぶりのタイミングまで台本通りであるといった内容を聞くと役者さんは大変なんだなと感じました。 ・カーテンコールの直前に笑いが起きた事は、このスペースでこの観客数でこそだと思いました。アフタートークの冒頭に役者さんたちが、驚いて「何故笑いが」と聞いていたのが面白かったです。 ・中スタジオすべてで台詞が十分聞き取れただろうか。 ・経験値の高い出演者のアンサンブルに味がある演出であった。 内容や出演者とも良かった。舞台装置・衣装も会場の制限を考えると工夫を感じる。また会場のお客とのやり取りも闊達にあり、見応えのある講演であった。
KAAT カナガワ・ツアー・プロジェクト 第三弾「冒険者たち～ JOURNEY TO THE WEST～」 / KAAT 中スタジオ	・音楽が生演奏で劇との一体感があり良かったです。特に弾き語りの部分は秀逸でキャストの皆さんの歌も素晴らしく、ミュージカルなのかと思えるほどでした。冒頭の「レティシアのテーマ」は映画ファンには涙ものでした。 ・今回は2作品同時上演なので、スケジュールの組み方が大変だったと思いますが、初めての方、新作のみの方、2作を1日の方など様々なニーズに答えられる内容で感服しました。 内容や出演者とも良かったが、脚本として、神奈川随所の場所やお店の紹介が、若干コマーシャルかった。「冒険者たち」と比較して内容としてこなれていない部分を感じ

公演名／会場	ご意見
KAAT カナガワ・ツアー・プロジェクト 第三弾『帰ってきた冒険者たち～闇に落ちたカナガワを救え！』／KAAT 中スタジオ	た。 演劇と音楽のコラボで、軽妙な掛け合いと随所にちりばめられ笑いが楽しめる上質な舞台と思われる。KAAT創作作品を県内巡回するプロジェクトのうち、4年前の冒険者たちの続編と言うことになるだろうか。神奈川の各地、特に政令指定都市ではない、海老名のような地域を取り上げることで、神奈川全体を見せようとする工夫は好ましい。荒唐無稽なストーリーだが（なんたって西遊記のパロディ）、最後まで観客の関心をひきつけ、それなりに着地して、得心させる力がある。第一作に比べ、ややブラックなテーマ設定で、シュールな仕上がりになったように思うが、KAAT小劇場にふさわしい。観客席はほぼ満席、女性が多いが、年齢層は多様。皆、楽しむ気満々な感じで、盛り上がっており、満足度は高かったように思われる。 ・第1作に比べるとダイナミックスさが増しているように思いました。楽曲も使用楽器が増えた事でパワフルな部分が増え、役者さんのスピード感も増していました。神奈川ネタも、ふんだんに散りばめられており、楽しめました。 ・座った席は、E-12でしたが、役者の方が舞台前方で演技されている時にやや見にくいと感じる時間がありました。スタジオのスペースの制約があるとは思いますが、可能であれば舞台を少し奥にセットしたほうが良いのではと思いました。 ・3回目の公演が実現できたことが良い。 ・キャスティングが実に良い。 ・神奈川県内のエピソードが活かされていることと、県内のツアーが実現していることが良い。 ・前回公演との2公演という試みも良い。 ・俳優の力量が存分に発揮されていた。音楽を担当した角銅の演奏が作品をより豊かなものにしていた。 ・企画趣旨に則り、神奈川県にまつわる小ネタが各所にちりばめられ、作品の卓越性だけではなく県民に親しみが持てる内容となっており、演出（芸術監督）の神奈川県や作品への愛情が感じられた。 ・県内各所でのツアーを想定した小回りが利くであろう舞台美術に個人的には親しみを覚えた。既に予定されているホールだけではなく、地域の小さな文化施設でも巡回公演をしてもらいたい。 ・大人から子どもまで多くの県民が良質な舞台芸術作品に身近に感じながら堪能できる作品だと言えるが、他方でチケット代はやや高いと感じた。前述の舞台美術がチケット代の割にはチープに感じる県民も少なからずいると考える。 内容や出演者とも良かったが、脚本として、神奈川随所の場所やお店の紹介が、若干コマーシャルかった。「冒険者たち」と比較して内容としてこなれていない部分を感じた。
ダニエル・オッテン ザマー クラリネット・トリ	クラリネット・トリオ・アンソロジーと言うことで、珍しいコンビネーションに期待して伺ったが、期待以上の演奏だった。クラリネット、チェロとピアノの3つの異なる楽器を使ったこれまでの名曲を集め、その中からいくつか紹介するという趣向の演奏で

公演名／会場	ご意見
オ・アンソロジー／ 音楽堂	ある。ウィーンやベルリンフィルなどの名だたるオーケストラの奏者でもあり、幼なじみでもある3人の息のあった演奏は、楽曲や彼らの想いなどの説明と合わせて、大変楽しめるものであった。ベートーベンやモーツァルトなどから始まり、女性作曲家や現代作家の作品へとつながるプログラム自体も、大変興味深く、観客を飽きさせない工夫も感じられる。アンコールは2曲、短いものだが、スタンディングオベーションもあり、観客と演者のあたたかな交流も感じられるよいコンサートだったと思われる。
	・クラリネット、チェロ、ピアノのトリオ編成での素晴らしい演奏で楽しめました。奏者のコメントが英語だったので、すべての観客に伝わらなかったのは残念でした。 ・音楽堂のホールの良さが伝わる公演でした。ジャズのピアノソロや小編成のコンボ等も聴きたいと思いました。
	・幼なじみのトッププレイヤー達による、圧巻の好演だった。 ・プログラムには決して一般的とは言えない曲目が並んでいたが、どれもこのトリオの魅力を引き出すものであると同時に、まさしく シリーズ「新しい視点」に向けたものであり、音楽堂ならではの貴重な企画となっていた。 ・そのようなプログラムにも、多くの熱心な観客が集まっているのは、これまでの長年にわたる充実した企画により、多くのファンが音楽堂に定着していることをあらためて実感しました。
	・魅力的な音楽を聞かせてくれるトリオである。 ・音楽堂にとってもフィットしてプログラムである。 ・ワンステージしか公演できないのは少しもったいない気がするが、2ステージは難しいかも。
紅葉坂プロジェクト Vol.4／音楽堂	どちらのプログラムもワークインプログレスからのつくり込みがみられて良かったです。「ゼッター絶対音感主義者」は音楽と声とのバランスがよく、指揮者の方の立ち位置が工夫されていて良かったです。「ラヴェル・アンヴェイルド」は多くのパフォーマンスがあるにもかかわらず、音楽の流れが途切れず良かったです。
	・vol.3 でも感じたことだが、実験的な取り組みには施設の協力が不可欠であり、職員の皆さんの情熱的な支えと理解があってこそ、充実した事業と成りえたのだと思う。 ・2企画共に、膨大な事前準備を要したことが窺える力作で、鑑賞者というよりも、実験現場の立会人のような気分で楽しめた。 ・ロビーには、『ラヴェル・アンヴェイルド』の制作風景映像が設置されていたが、会場時はモニター背後のガラス面からの日差しの明度のために映像自体はほとんど見えず、日差しが強すぎてモニターを直視することもできなかった（終演後は問題なく観られた）。来場者の動線を考慮した配置だとは思いますが、当日は(他公演ではよく見られる)即売ブースが出ていなかったの、ホール客席壁側に設置することもできたのではないかな。 ・既存の公演とは異なるプロジェクトの鑑賞理解を深めたく、開演前の時間を利用して配布プログラムを読み込んだが、他公演チラシと共に透明ビニール袋に封入配布されていた『ゼッター絶対音感主義者』企画の別紙資料の存在には気づけなかった。アンケート

公演名／会場	ご意見
	ート回答用紙が袋内の一番上に重ねられていたことも一因かとは思いますが、別紙資料の存在アピールもできればベターだったのではないかと。 ・『ゼットタイ絶体絶対音感主義者』企画内では、読譜のためにも奏者には照明が当たっていたが、俳優陣側は暗がりで見ているような印象の場面も見られた。（演出とは思いいにくかったので記しておきます） ・公募企画であること ・2つのプロジェクトがそれぞれ個性ある試みで、問題意識もレベルも異なる。コンサートでありながら、音楽のあり方そのものを考える機会の提供にもなっていることが興味深い。 ・既に4回目ということだが、これまでのプロジェクトを整理し、情報開示をしていく。ことと、まだ早いかもしれないが将来この試みをどのように修練をさせて意向とされているのかの方針を知りたい。
音楽堂ヘリテージ・コンサート ジャン＝エフラム・バウゼ ピアノリサイタル オール・ラヴェル・プログラム ／音楽堂	ラヴェルのピアノ独奏曲で構成されるプログラム。アンコールはラヴァルスで、2度の休憩をはさんだ3時間を超える公演は長いものの、ほぼ満席で、最後は観客総立ちのスタンディングオベーション。本人も力が入った演奏だったと思う。ピアノだけで演奏しているとは思えないほどの多様で多彩で重層的な音に圧倒されるとともに、ピアニストによってそれぞれの曲がかくも大きくイメージを変えということも実感できた。パウゼの技量だけでなく、曲の解釈？による深い理解が底流にあるということが伝わったものと思う。観客は比較的熟年を中心に年齢層はばらついていて、子供たちは少ないものの（演奏の内容や時間からいってなかなか難しいかもしれない）、多様な層の音楽を楽しむ観客を誘客できていると思われた。 ・オールラヴェルという内容が素晴らしく、それを弾きこなすピアニストも素晴らしかったです。アンコールは、ないと思っていたところに「ラ・ヴァルス」最高でした。 ・攻めの企画を立てると聴衆も反応するという好例だと思います。曲間の無駄な拍手もなく、よくある咳払いさえほとんどありませんでした。ジャン＝エフラム・バウゼさんをまた呼んで下さい。
音楽堂ヘリテージ・コンサート ナタリー・デセイ & フィリップ・カサール デュオリサイタル ／音楽堂	・第1部と第2部でテイストが変えてあって、楽しめる内容でした。特に第2部は、今後の主軸の内容でもあり、とても楽しいプログラムでした。ナタリー・デセイの解説が通訳されて、わかると更に楽しめたかなと思います。 ・ピアノとソプラノのデュオはこのホールにピッタリです。今後もソロ、デュオ、トリオの企画の継続をお願いします。 ・最後のツアーであるが、最後でなければ聞くことができなかった歌唱だったかもしれない。 ・既にオペラは引退をしており、第一線というわけには行かないが、短い歌曲であれば往時の片鱗を感じさせる。 ・長年のデュオで息の合った歌唱と伴奏を楽しむことができる。音楽堂に最適なプログラムのように思う。 ・ただし、チケット代は安くない。

公演名／会場	ご意見
大人のための音楽堂 tic! tac! toe!／音楽堂	プログラム内容が充実しているとは思えず、空席も結構あった（70%ほどの入りか？）。本公演中に1回ロビーで開催されていた別プログラムの音が、会場にも漏れていた。また途中の入場入れ替えについても、入れ替え時間がタイトでスムーズに行われていたとは思えなかった。
第58回音楽堂クリスマス音楽会 ヘンデル「メサイア」 全曲演奏会／音楽堂尾	ヘンデルのメサイアという世界中で演奏される名曲をこの時期、定期的に上演していること、合唱がベテランから高校生まで多くの市民参加によるものであること、音楽堂の音響環境を最大限に生かすという点でも大変優れた企画である。今後もぜひ継続していただいたい。ほとんどの席が埋まり、観客の満足度も高く、素晴らしい公演であった。これだけの公演にしてはチケット代も極めてリーズナブルである。ソリストもののびと歌っており、合唱、オーケストラとの調和もよく、大変に楽しめた。ただ、観客層は、予想以上に熟年が多く、若い世代への一層の訴求も必要であろうか。合唱には高校生も参加している関係で、もっと若い世代の観客も来るのではないかと期待したが、それほどでもなかったのは気になる点である。
	・とても良い演奏でした。特に合唱とオーケストラの一体感が素晴らしく、感動しました。ソロ歌手の方もオケのソリストの方も抜群でした。 ・昨年に続き、2回目のメサイアでしたが、指揮者やメンバーの違いで出てくる音楽が違うのだなと実感しました。メサイアは今後も続けていくと思いますが、企画上の変更や工夫をする事で毎年新たな音楽を提供できればよいなと思います。

II 広報宣伝 気づいた点（良かった点、工夫が必要な点）

公演名／会場	ご意見
神奈川フィルハーモニー管弦楽団と巡る 県内オーケストラコンサート／県民ホール (会場：伊勢原市民文化会館)	・伊勢原市民文化会館のホームページはタイトルと日時と料金だけのシンプルな内容でした。県民ホールのホームページへの案内があれば良いと思います。 ・県民ホールのホームページを確認しました。出演者のページは写真のみでしたが、簡単な紹介文があると良いと思います。曲目の下に上演時間（終演予定等）があると親切だと思います。 ・配布されたチラシは、ほぼ「神奈川県民ホールpresents」のもので、絞り込まれていて良かったです。開場前に小ホールのエントランスに入りましたが、そこに、長テーブルに置かれていた、各種催事のチラシがあり、お客様が興味深そうに眺めていました。その中からお気に入りを手に取られる様子もみられました。こういうやり方もなかなかいいなと思ったのでお知らせします。
藤沢市民オペラ 連携事業 オペラシリーズ モーツァルト オペラ《羊飼いの王様》 全2幕／県民ホール (会場：藤沢市民会	ホームページには特筆するものは見当たらなかったように思われる（見逃したのかもかもしれませんが）。しかし、観客の入りから推測するに、必要な情報は必要とするセグメントに十分いきわたったものと思われる。ただ、世代的には若年層は多くはないように見受けられた。（価格による若年層へのインセンティブはどの程度効いているのでしょうか。） ・藤沢市民会館のホームページを確認すると、今回のプログラムは最低限の情報のみでした。県民ホールの情報へのリンクがあれば良いと思いました。

公演名／会場	ご意見
館)	・トップページのニュースの11月7日の欄に上演時間の案内があったのは良いのですが、タイミングが遅いと思います。もっと早く（最初から）案内したほうが親切です。リハーサルの動画、出演者の方のメッセージ動画はとても良いと思います。活字と動画の差は大きいと思います。 ・藤沢市民オペラとの連携事業が大切である。 ・HPにあらすじを載せるのはよい。 ・アフタートークの質疑の募集も関心を高める工夫にはなるかもしれない。
グリーンホール相模 大野開館35周年記念 The Sixteen／ 県民ホール (会場：相模女子大学グリーンホール大ホール)	グリーンホールのホームページにアクセスしてみました。画面はシンプルでしたが、県民ホールへのリンクがあったので、そちらにすぐアクセスできました。他の会場の場合は有効だと思います。以下は県民ホールの内容。出演者のところに簡単なプロフィールがあると親切です。(PDFへのアクセスは面倒なので) 動画情報はとても良いのですが、できれば今回の公演と同じ歌のみの内容が良いと思います。プログラムのところに終演予定時間があると良いと思いました。
C × JAZZ 壺阪健 登 × デューク・エ リントン／県民ホール (会場：ラゾーナ川崎 プラザソル)	ホームページの情報はプラザソルにせよ、主催者(財団)にせよ、あまり積極的に行われた感じはない。坪坂氏のインタビューなども掲載していてもよかったのではと思うが、一般的な情報は必要なセグメントにはいきわたったものと思われる。というのも、プラザソルのキャパ(200席?)はほぼ埋まっており、観客層のあたたかな反応から、ファン層が誘客されたことは明らかである。 プラザソルのホームページにアクセスしてみました。画面はシンプルでしたが、県民ホールへのリンクがあったので、そちらにすぐアクセスできました。他の会場の場合は有効だと思います。以下は県民ホールの内容。動画情報は今回はジャズなので、できれば今回の公演と同じ内容の演奏が良いと思います。出演者のところに簡単なプロフィールがあると親切です。プログラムのところに終演予定時間があると良いと思いました。 魅力的な主催企画の引越公演を開催することで、私自身を含め、ラゾーナ川崎プラザソルを初めて訪れた観客も居たようで、県内施設の周知、集客にもつながる取り組みだと感じた。
KANAGAWA ロック サーキット 「語り継ぐロックの 伝説」ADDONE LE T'S FUNKY XMAS GIG／県民ホール (会場：大和市文化 創造拠点シリウス芸 術文化ホール)	最初に「シリウス」のHPにアクセスしましたが、今回のイベント情報の掲載はありませんでした。主催者の意向との事ですが、県民ホールとのコラボ企画である事、内容が素晴らしい事もあり、もったいないと思いました。県民ホールのHPはメンバーのプロフィールや動画情報など、わかりやすい内容でした。あと欲しいのは終演予定の情報です。(休憩の有無も含めて)
C × Baroque 大塚 直哉が誘うバロック	ホームページでの情報は一通り掲載されており、十分である。小ホールだが、観客の入りもよく、おそらく固定ファンと思われる年配の方が多いものの、女性、若い人もそ

公演名／会場	ご意見
の世界 Vol.5 コンチェルトとソナタ～バロックの申し子たちの成長とその先／県民ホール (会場：横浜みなとみらいホール 小ホール)	れなりにいて、世代を超えるリピーターの存在を感じさせる。大塚氏によるミニレクチャーは、既述のとおり大変充実したもので、観客の受け止めも大変よく、良質な公演であった。7人での演奏がここまで重層的に響く音の世界を生み出せるとは驚きである。ホール自体も響きも良く、素晴らしいものであった。 最初に「みなとみらいホール」のHPにアクセスしてみました。今回のプログラムのタイトルをクリックすると「県民ホール」のHPにジャンプできました。動画情報の大塚さんの説明がわかりやすかったです。出演者のプロフィールは写真と名前だけでなく、簡単な紹介文章があれば良かったと思います。あと、プログラムの終演予定時刻があれば親切だと思います。 フライヤーやHPを拝見しても、ひととき特別な工夫を感じないが、集客的に成功しているのは、プログラムの魅力だろう。
KAAT 神奈川芸術劇場プロデュース 「最後のドン・キホーテ THE LAST REMAKE of Don Quixote」／KAATホール	観客は、比較的若い層が多いように思われた。家族や友人と一緒に人もいれば、単独での鑑賞まで、多様な形で楽しまれたように見受けられる。ただ、上演時間は長い。終演は夜の10時近くで、観客が十分楽しんだことは、先に述べたスタンディングオベーションでもわかるが、個人的には、やや疲れた。(6時から10時近くまで拘束、中一度の休憩は15分程度だった。皆さんはいつ夕飯を召し上がったのでしょうか?)なお、ホームページその他での演出家のインタビューなど広報は充実しており大変興味深く拝見した。 ・上演時間の揭示は良いと思います。これは今後も継続をお願いします。 ・今回はその他の公演のチラシの配布は、セルフサービスで良かったです。あと当日のチラシが置いてあると親切かなと思います。チラシがあってもパンフレットを買う方への影響はないと思います。 ・フライヤーのデザインが魅力的である。 ・旅公演には、大変なセットではあるが、KAATの魅力を流布できたと考える。またこういった魅力的な作品を創ることこそが本来のリピーターを増やす取組につながる王道であると考えます。
KAAT×TJP (ストラスブール・グランテスト国立演劇センター) 「ダンスマラソンエクスプレス」(横浜⇄花巻)／KAAT大スタジオ	・ピックアップムービーは良いと思いました。リハーサル等の動画が少しでもあればより伝わりやすいと思います。当日券情報の前にスケジュール～チケットのページがあると分かりやすいと思います。上演時間の揭示は良いと思います。 ・今回はその他の公演のチラシが座席にセットされていましたが、入場口でのセルフサービス式のほうが良いと思います。今回配布の内訳は以下の通りです。①KAAT関連：7 ②他の公演：46 ③音楽堂：2 ④その他：2 紙もこれだけあれば、かなりの重量です。配布方法の検討をお願いします。 ・広報媒体は、オノマトペに寄せて作られているが、公演タイトル、日本の時代と流行の変遷、日本人の美学・原点などどこがこの公演の焦点なのかかわかりにくい。 ・入場料金の差別化は、確かにこの公演を見ることへの動機づけとして効果は期待できるが、リピーター効果としては疑問
K A A T キッズプロ	・「鏡の中の鏡」⇒コンパクトになっていて見やすいと思いました。上演時間の揭示は

公演名／会場	ご意見
グラム 2025 「鏡の中の鏡」「わたしたちをつなぐたび」／KAAT大スタジオ	良いと思います。 ・「わたしたちをつなぐたび」⇒当日券情報は、スケジュールのページの前に入れたほうがわかりやすいと思います。上演時間の掲示は良いと思います。 ・今回はその他の公演のチラシが座席にセットされていましたが、配布の24枚のうち、お子さん向けのものが、12枚と入場者に合わせた内容になっていて良かったと思います。 報告者は神奈川県内に家族で在住しているが、報告者の子ども（小学生）は当該公演のことは全く知らない。
KAAT 神奈川芸術劇場プロデュース 「未練の幽霊と怪物—『珊瑚』『円山町』—」／KAAT大スタジオ	RADIOKAAT Vol.40を聴きました。長塚さん、岡田さん、片桐さんのお話に引き込まれ、プログラムへの期待が高まる内容でした。特に、オーディションの時の岡田さんの視点が興味深かったです。ホームページ内の説明で、今回は「能」のフォーマットを使用されているとの事でしたが、初心者向けにもう少し補足説明があればわかりやすかったのではないかと思います。 ・フライヤーのデザインが魅力的である。 ・公演タイトル（未練の幽霊と怪物）を判読させないことが、フライヤーのデザイン意図か？ ・当該公演のチラシについて、都内での公演で長く複数回に渡った拝見した。演劇・舞踊分野で興味関心がある鑑賞者層に向けたリマインドにもなり効果的だったと言える。
KAAT EXHIBITION 2025 大小島真木展 あなたの胞衣はどこに埋まっていますか？／KAAT中スタジオ	・今回印象に残ったのはKAATに入ったところで、大きな絵が展示されていて目を引いた事です。とても効果的だと思います。 ・トップページのあとの動画情報が良かったです。これを観ることで展覧会の様子がわかるので集客効果は高いと思います。 ・他の公演のチラシの配布は、テーブルの上に置く方法で、良いと思います。 ・フライヤーのデザインが魅力的である。ただ、展覧会の魅力まで伝えることは難しいかもしれない。ただ、今回は「胞衣」という言葉がキーワードとして活かされていたように思う。 ・最も鑑賞者をインキュベートする仕掛けは、アトリウムへの露出だったように考える。芝居を見に来たが、改めて展覧会を覗いてみたいと誘導になったのではないか。
KAAT×城山羊の会 「勝手に唾が出てくる甘さ」／KAAT中スタジオ	・ピックアップムービー RADIOKAAT Vol.38は、とても面白く、プログラムへの期待が高くなる内容でした。演劇のあるあるの一面も知ることができました。当日券情報の所に上演時間の告知があり良かったです。そのあとのコメント動画も楽しめました。 ・その他の公演のチラシは、ホール公演での配布方法が良いと思います。（テーブルの上に置いておき、自由に取れるやり方） ほぼ満席だったので、広報の必要は結果的にはなかったのかもしれないが、タイトルを含めてあのフライヤーだけでは、この作品がどんな作品なのかということが初めて観る観客には伝わりにくいのではないか。城山羊の会あるいは、山内ケンジ演出作品を露出することができなかつたらどうか。
KAAT カナガワ・ツ	・RADIOKAAT Vol.39は、長塚さん、角銅さん、成河さんの話がとても面白く、本作を

公演名／会場	ご意見
アー・プロジェクト 第三弾 「冒険者たち～ JOURNEY TO THE WEST～」／KAAT 中スタジオ	観る前の期待が膨らむ内容でした。演劇初心者の方にも観てほしいという熱意のこもった内容でした。また記事の中では、2作品の簡単なあらすじがコンパクトに書かれていて親切だと思いました。 ・その他の公演のチラシは、テーブルの上に置いておき、自由に取りれるやり方になっておりとても良いと思いました。観客の方をみても、必要な方はチラシの入った白い袋を持っている印象でした。 広報としてHPなど以外での広報がどの様になっているか気になるところである。
KAAT カナガワ・ツ アー・プロジェクト 第三弾 「帰ってきた冒険者 たち～闇に落ちたカ ナガワを救え！～」 ／KAAT中スタジオ	ホームページその他の情報提供は一般的な水準は十分満たしているが、おそらく口コミを創る作戦かと思われる。これは、アフタートークで、演出の大澤氏や主催者の長塚氏が強調していた点でもあり、実際、かなり熱心なファンと思われる観客たちであった。ただ、リピートの比率はさほど高くないように見受けられる。今後注力すべき点か。 ・本日も昨日同様、ほぼ満席で、客層も若い方からシニアの方まで幅広く、今回のプログラムに対する期待の高さを感じました。 ・当日配布のパンフには出演者のプロフィールがありましたが、ホームページにも簡単に良いので掲載すると良いと思います。素晴らしい役者さん達ばかりでしたので。 あやしいフライヤーのデザインがさらに面白味を増して来ている。 「親しみ・楽しみ」を感じるチラシだが、ツアーチラシのためやや情報過多に思える。 広報としてHPなど以外での広報がどの様になっているか気になるところである。
ダニエル・オッテン ザマー クラリネット・トリ オ・アンソロジー／ 音楽堂	観客は、若い方から熟年層まで幅広く、家族や友人と一緒に人もいれば、単独での鑑賞まで多様な形で楽しまれたように見受けられる。演奏時間の制約からか、子供たちは少ないものの、多様な市民が楽しんだことは高く評価できる。ただ、今回は、後ろの席にやや空席が見られ、大変残念である。この3人の来日全国ツアーの一日が当音楽堂で行われたものであると理解したが、ほかの演奏会場のビデオなどに比べると、音楽堂のホームページでの情報提供が少し控えめな印象を持った。トリオ演奏であっても、音がクリアで、美しく、息のあった演奏は予想を超えて聴きごたえがあった。せっかくの上質で少し定番とは異なる興味深い公演だったので、より多くの市民にこの魅力を発信し、できれば当日会場で聞いてもらえたらよかったと思う。 ・本公演のページはコンパクトでとても分かりやすかったです。欲をいえば、「新しい視点」の為のプログラムの所の説明が欲しかったです。プロフィールの後の動画がとても効果的だと思いました。 ・今回の配布内容は音楽堂関連が5種と絞り込まれていて良かったです。 ・youtubeでトリオの楽しそうな練習風景が見られて、当日に向けて期待感が膨らむ一助となっていた。 ・既に定評のあるトリオであり、広報は行き届いていたように思う。 ・高校生は半額というのは効果があるように思う。ただ、どれだけ売れているのかを確認された方がいい。
紅葉坂プロジェクト Vol.4／音楽堂	流れがすっきりとしており良いと思いますが、情報量がやや少ないと感じました。チラシのPDFは表紙のみで個別のプログラムの内容が確認できませんでした。3月のワー

公演名／会場	ご意見
	クインプログレスの内容の動画を見せる事も良いと思います。 とても面白い企画ではあるものの、事前広報時点では、詳細未定と思われ、券売にはご苦労が多いことと推察するが、客席はかなり埋まっていた。 ・このプログラムを紹介していくためには、どのような取組なのかを語ることが重要ではないか。また、今回はどのように評価されて、ワークインプログレスでは、どのような成長が見込めたのか。例えば審査委員評価やワークインプログレスの状況レポートなども掲載できるといい。 ・1,000 円のチケット代だが、さらに U-24 は 500 円、高校生以下は 0 などチケット代については大いに検討されているが、それでも 7 割程度の集客だったかもしれない。ただ、客席には、このような試みを聞いておきたいという方々が多く集まられていることが試みの期待感があったように思われる。 ・公立文化施設が、音楽の根源を探究していく試みは、あまり行われていない。今後の可能性に期待をして行きたい。
音楽堂ヘリテージ・コンサート ジャン＝エフラム・バヴゼ ピアノリサイタル オール・ラヴェル・プログラム／音楽堂	ホームページにおける演奏映像の配信は大変インパクトのある、興味深いもので、音楽を深く理解したい観客を誘客することにつながったと評価したい。近年、アーティスト本人が自らの想いを自らの言葉で語ることもよくあるので、バウゼの話も聞いてみたいと思った。 トップページから出演者のプロフィール、そのあとに音源があってよかったです。できればプログラムの欄に公演時間の表記があればよかったと思います。(チラシにはきちんと表記されています)
音楽堂ヘリテージ・コンサート ナタリー・デセイ&フィリップ・カサール デュオリサイタル／音楽堂	トップページから出演者のプロフィール、そのあとに音源があってよかったです。できればプログラムの欄に公演時間の表記があればよかったと思います。(終演見込みだけでもわかると親切です) ・日本で聞くことが最後になることをもう少し強調してもよかったのではないかな。 ・鑑賞サポートがあることや外から楽しむ音楽堂建築ツアーなどが企画されていることは望ましいが、告知が行き届いているだろうか。
第58回 音楽堂クリスマス音楽会 ヘンデル「メサイア」全曲演奏会／音楽堂	音楽堂の定例公演であり、既に顧客がついていると思われ、ほぼ満席で、熱心にプログラムを見ながら鑑賞する人もいて、非常に強力なコンテンツといってもいい定例公演と思う。ただ、広報がいつも以上に積極的に行われたといった実感はさほどない。合唱参加者の家族や友人知人と思われる世代の観客も多く見られる一方、一人で気軽に来られたと思しき観客も幅広くいらっしゃったようで、固定的なファンの存在が頼もしくもあり、逆に新規顧客獲得の必要性和難しさを感じる。 ・毎年の恒例行事とはいえ、ホームページがシンプルすぎる気がします。初めてのの方の為に「ハレルヤコーラス」のさわりの動画や演奏者のコメント等があれば良いと思います。あと終演予定は告知して欲しいです。 ・配布されたチラシの中に今回出演されている高校の「定期演奏会」のものが入っていましたが、とても良い事だと思いました。県内の高校のすべてのものを提供するのには難しいとは思いますが、音楽振興という観点からみれば、県の施設からの発信も必要だと

公演名／会場	ご意見
	思います。

III サービス 気づいた点（良かった点、工夫が必要な点）

公演名／会場	ご意見
神奈川フィルハーモニー管弦楽団と巡る 県内オーケストラコンサート／県民ホール (会場：伊勢原市民文化会館)	・大ホールの入口の係員の方は4名体制で良かったのですが、電子チケットの方と紙チケットの方が同じ列に並んでいた為、少し流れが良くないと感じました。事前に電子と紙の枚数を確認した上で、入口を分ける方法が良いと思います。 ・ホール内のお客様への案内はとても良く、聞かれたら答えるのではなく係員の方からの積極的な声かけが、されていました。 ・県民ホールに小さなお子さん専用の座椅子があったと思うのですが、他のホールで活用できればと思います。
藤沢市民オペラ 連携事業 オペラシリーズ モーツァルト オペラ《羊飼いの王様》全2幕／県民ホール (会場：藤沢市民会館)	特段の問題はない。スタッフの人に隣の建物についてお尋ねしたところ（トイレがそこらにもあるということでしたので）、今回初めてスタッフとして入った劇場なのでよくわからないとのことであった。（外注スタッフなのでしょうね。）ただ、劇場自体は、さして複雑な構造ではないので誘導には問題ないと思われる。 ・入場前の関係者窓口が混みあっていました。協賛会員の方の現金精算に時間がかかっているようでした。このような場合は窓口を分けたほうがスムーズに流れると思います。 ・係員の方の対応は素晴らしく、座席への案内や休憩時のトイレ等の案内も的確でした。 財団職員も初めての経験だったように思うがつつがなくこなされていたのではないかな。
グリーンホール相模大野開館35周年記念 The Sixteen／ 県民ホール (会場：相模女子大学グリーンホール大ホール)	ホールへの入口は4箇所でも良かったのですが、オンラインチケットで手間取っている方の為に一部、渋滞が発生していました。このような場合を想定して、入口を分ける方法やトラブル対応の人員を用意する等の対策を立てたほうが良いと思います。
C×JAZZ シー・バイ・ジャズ壺阪健登×デューク・エリントン／県民ホール (会場：ラゾーナ川崎 プラザソル)	小さなホールでトイレも少ないので、ホールの外のトイレにも誘導しており、問題なくスムーズに鑑賞できた。 ・係員の方の対応はホールへの入口もホール内も丁寧で良かったです。 ・プログラムの内容が終演後の出口に掲示されていました。通常、クラシック以外のジャンルの場合はセットリストは事前に出さない事が多いと思いますが、よく考えてみるとこれも奇妙です。せっかくなので、県民ホールの関連コンサート場合はジャンルを問わず、プログラムに載せるもしくは当日開演前に配布するのはどうでしょう。
KANAGAWA ロックサーキット	入場口の対応は丁寧でスムーズでした。係員の方がチケットを確認するタイミングで、席番号を確認し入場口の案内をするのはとても良いと思います。

公演名／会場	ご意見
「語り継ぐロックの伝説」ADDONE LE T'S FUNKY XMA S GIG／県民ホール （会場：大和市文化創造拠点シリウス芸術文化ホール）	
C × Baroque 大塚直哉が誘うバロックの世界 Vol.5 コンチェルトとソナタ～バロックの申し子たちの成長とその先／県民ホール （会場：横浜みなとみらいホール 小ホール）	卓越した演奏、この長さで 4000 円というのはコスパ的には大変リーズナブル。観客層が圧倒的に年齢層が高いように思う。もっと若い世代にも聴いてもらいたいような公演である。 ・受付の方もホール入場口の方も丁寧な対応が良かったです。 ・細かい事ですが、座席のうしろに上着をかけている方に対して、丁寧に対応されていました。 特に気づくことがないことが良いことかもしれない。
KAAT神奈川芸術劇場プロデュース 「最後のドン・キホーテ THE LAST REMAKE of Don Quixote」／KAATホール	休憩時間がやや短めだったので、スタッフがトイレ誘導を積極的に行っていて、問題は生じなかったものと思われる。 ・チケットの係員の方も入口の係員の方もとても丁寧な対応でした。入口は3カ所の設定でスムーズでした。 ・ホール内の案内の係員の方は丁寧で、開演前に入場されたお客様には積極的に声掛けをされていました。 ・すべての対応が笑顔でできていました。 特に気づくことがないことが良いことかもしれない。
KAAT×TJP（ストラスブール・グランテスト国立演劇センター） 「ダンスマラソンエクスプレス」(横浜⇄花巻)／KAAT大スタジオ	・チケットの係員の方もスタジオ入口の係員の方も丁寧な対応でした。本公演の上演時間や休憩がない事もきちんと告知されていました。 ・入場後のスタジオ内の案内の係員の方が、空席への誘導を的確にされていました。開演直前には空席状況の確認もしたうえで、誘導をされていました。 やや演技エリアが客席や床置き灯体に近く、見ている方が少し心配になったシーンがあった。
KAATキッズプログラム 2025 「鏡の中の鏡」「わたしたちをつなぐたび」／KAAT大スタ	・チケットの係員の方もスタジオ入口の係員の方もとても丁寧な対応でした。本公演の上演時間や休憩がない事もきちんと告知されていました。 ・入場後のスタジオ内の案内の係員の方が、空席への誘導を的確にされていました。開演直前には空席状況の確認もしたうえで、誘導をされていました。 ・プログラムの途中で退出される親子連れの方がいましたが、すぐに係員の方がサポー

公演名／会場	ご意見
ジオ	トに向かっていました。 ・スタッフ全体で来場者を笑顔で出迎えていた。劇場などに来る際、子どもたちは少なからず緊張するものだが、子どもたちの安心感につながったと思う。 ・付箋を使って感想を書く企画も、夏休みの思い出として記憶に残り、劇場での観劇を印象付ける効果的なものだった。 ・当日はエントランスでマルシェも開催されており、劇場が広場として機能していたが、スタジオで実施する公演との連携や関連付けられた企画があればより効果的だと感じた。
KAAT 神奈川芸術劇場プロデュース 「未練の幽霊と怪物 —『珊瑚』『円山町』 —」／KAAT 大スタジオ	・スタジオ入場口の係員の方の丁寧な対応が良かったです。席までのルート案内が的確でした。 ・開演後のお客様の案内の際、客席後方から誘導されていたのが良かったです。 特に気づくことがないことが良いことかもしれない。 特に気になる点はなかった。
KAAT EXHIBITION 2025 大小島真木展 あなたの胞衣はどこに埋まっていますか？ ／KAAT 中スタジオ	・係員の方の対応は良かったです。 ・会場内の入口が分かりにくかったです。左右にドアがあり入口を確認するに時間がかかりました。 ・会場内は展示の関係で暗いのは良いのですが、壁面に配置された椅子の位置が分かるような工夫は欲しいと思いました。 ・出口が分かりにくかったです。表示をもう少し大きくしても良いと思いました。入場口で出口の案内をするのも良いと思います。 当日ではないが、NHK「あんぱん」の展示とオペラシアターこんにゃく座のプレ公演、そして中ホールから露出した展示が混在するところを拝見したが、つつがなく整理、誘導をされていたように感じた。
KAAT×城山羊の会 「勝手に唾が出てくる甘さ」／KAAT 中スタジオ	・中スタジオまでの案内は丁寧な対応で良かったです。入口での休憩時間の案内や、ホール内でのイス下の収納の案内もきちんとされており良かったです。 ・終演後の退場の際、後方に向かう方が多く混雑していました。会場前方への案内も必要かなと思いました。
KAAT カナガワ・ツアー・プロジェクト 第三弾「冒険者たち～ JOURNEY TO THE WEST～」／KAAT 中スタジオ	・今回のプログラムは休憩なしの通し上演でしたが、エスカレーターを上がりきった所とスタジオ入口で「休憩なし」の告知が係員の方によってきちんとされていました。とても親切な対応でした。 ・何回か来られた方は、わかっているのですが、イス下の収納ボックスの事は初めての方にはわかりません。開演前のアナウンスの時にお知らせすると良いと思います。 2月15日に「帰ってきた冒険者」をみたが、「帰ってきた冒険者」が先に講演されたので、「冒険者たち」が後でみることになった。順序が逆であれば、もっと見やすかったかなと思う。
KAAT カナガワ・ツアー・プロジェクト	舞台自体も楽しめる構成であったが、アフタートークが、短くても内容の濃い、メッセージ性の強いものであった。前回の舞台と異なり、続きのストーリーと言うことで、

公演名／会場	ご意見
第三弾「帰ってきた冒険者たち～闇に落ちたカナガワを救え！」／KAAT 中スタジオ	観客の反応や手ごたえもある程度想定していたように思われる。今回は、KAAT のアピールと言うよりも、本作のストーリー自体のメッセージ性ととも、どのように作り上げて来たかというプロセスについても多く語っていた。このアフタートークには多くの観客が残り、熱心なファンの存在を感じた。長塚氏からの友人知人への呼びかけのお願いにも反応が良かったことから、今後の展開にもつながっていくことを期待したい。 ・中スタジオ内での座席の案内は丁寧な対応で良かったです。特に開演直前に入口される方の案内が的確でした。 ・終演後の退場の際、少し混みあいます。係員の方による誘導が必要かもしれません。 客席の下に置かれたバスケットはなかなか良い心づかいのように感じる。 ・スタッフ全体で来場者を笑顔で出迎えてくれた。 ・エントランスに春節に関連した展示がされており、当地ならではの工夫が施されていた。このこともあいまって企画に相応しいホスピタリティと一体感、祝祭感があつた。 2月15日に「帰ってきた冒険者」をみたが、「帰ってきた冒険者」が先に講演されたので、「冒険者たち」が後でみることになった。順序が逆であれば、もっと見やすかったかなと思う。
ダニエル・オッテン ザマー クラリネット・トリ オ・アンソロジー／ 音楽堂	観客数が通常よりも少ないせいか、音楽堂でいつも感じられるトイレ混雑が逆に緩和されていたのはよかった。 ホール入口の受付の係員の方は4カ所に配置されてスムーズでしたが、モバイルチケットと紙チケットの場所を明確にしたほうがスムーズに入場できると思います。 客席がほぼ埋まっている公演では、女性用化粧室の数が対応仕切れていない。レセプションистの誘導にも限界がある。
紅葉坂プロジェクト Vol.4／音楽堂	・チケットの受付の方もホール入口の方もとても丁寧な対応で良かったです。 ・ホワイエでの動画の案内がうまくできていなかったと思います。貴重な内容だけに残念でした。 女性用化粧室の数の対応を是非考えていただきたい。レセプションистの誘導にも限界がある。
音楽堂ヘリテージ・ コンサート ジャン＝エフラム・ バヴゼ ピアノリサ イタル オール・ラ ヴェル・プログラム ／音楽堂	・音楽堂でいつも感じられるトイレ混雑はスタッフの適切な誘導で緩和されていたのはよかった。なぜ和式があるのかはわからないが、和装の方もいらっしゃるのだろうか。今回はパンの販売も好評だったようで、売り切れのものもあったようである。休憩時間にCDを売っており、購入者は終演後本人からサインがもらえるとのこと。今時CDかと驚いたが、結構多くの方が購入しており（終演時に列に並んだ人だけでも少なくとも30人以上はいたように思う）、記念品としてお持ち帰りになるのだと理解した。 ・当日はあいにくの雨でしたが、ホール入口で傘袋を用意するだけでなく係員の方が来場者に渡していました。 ・係員の方がチケットを確認するタイミングで、席番号を確認し入場口の案内をされていました。 ・ホール内での席の案内では、ただお連れするだけでなく、その席の周囲のお客様にもお礼を述べていました。

公演名／会場	ご意見
音楽堂ヘリテージ・コンサート ナタリー・デセイ & フィリップ・カサール デュオリサイタル／音楽堂	・ 駅発 1 時 3 5 分発のバスに乗り、4 5 分にホールに着きました。入場口が少し混みあっていました。係員の方は 2 名体制でしたが、3 名体制でもよかったと思います。 ・ 係員の方がチケットを確認するタイミングで、席番号を確認し入場口の案内をされていました。これは、いつもながら丁寧な対応で良いと思います。 満席ではないが、休憩時間の女性化粧室のキューアップは何とか対策をするべきではないか。
大人のための音楽堂 tic! tac! toe!／音楽堂	少し遅れていったら、こちらが悪かったと思うが 1 階の無料パフォーマンスに案内されて、少しおかしいと思いながら、ある程度鑑賞していたが、さすがにおかしいと思い確認したところ、本公演ではないことが判明した。
第 58 回音楽堂クリスマス音楽会 ヘンデル「メサイア」全曲演奏会／音楽堂	・ 入場口の対応は丁寧でスムーズでした。係員の方がチケットを確認するタイミングで、席番号を確認し入場口の案内をするのはとても良いと思います。 ・ パンフレットは手渡しでなく、テーブルに置くやり方で良いと思いましたが、テーブルの位置が入口正面の為、少し混みあっていました。それぞれ少し距離を離すようにしたほうが良いかもしれません。

IV 施設について

公演名／会場	ご意見
藤沢市民オペラ 連携事業 オペラシリーズ モーツァルトオペラ《羊飼いの王様》全 2 幕（会場：藤沢市民会館）	非常に聴きごたえのある珍しい作品を堪能できた。藤沢市民会館は初めてお伺いしたが、便もよく、また、客層もオペラになじんでいる感じで、演者、観客一体となったよい舞台公演だったと思われる。こういったユニークな企画を継続して実施していくこと本館復活までモチベーションを維持するとともに、本館リオープンまでに潜在的な観客の掘り起こしにつながることを大いに期待したい。 オペラでは響きが不足するホールといわれてきたが、音響反射板の状態でも響きに物足りなさを感じる。ただただ建て替えを待つしかない。
C × JAZZ シー・バイ・ジャズ壱阪健登 × デューク・エリントン（会場：ラゾーナ川崎プラザソル）	プラザソルは初めての訪問で、行きつくまでに手間取った。ホームページの説明では、広場の左側を迂回し、「緑色の」LAZONA の表示があるとのことだが、この緑色の表示がわからず、結局スタッフの人たちに聞きながら、ずいぶん時間をかけて到達した。もう少しわかりやすくはならないのだろうか。（迷うのは、私だけでしょうか？）
KANAGAWA ロックサーキット 「語り継ぐロックの伝説」ADDONE LET'S FUNKY XMAS GIG （会場：大和市文化創造拠点シリウス芸術文化ホール）	・ ホールまでの道案内について このホールは初めてでしたが、駅からの案内表示が、とても分かりやすかったです。特に広場のビルの壁面に大きく表示されているものは、誰がみても分かりやすくて良いと思いました。

公演名／会場	ご意見
C × Baroque 大塚直哉が誘うバロックの世界 Vol.5 コンチェルトとソナタ～バロックの申し子たちの成長とその先（会場：横浜みなとみらいホール 小ホール）	劇場は、みなとみらい駅からすぐなのだが、どちらに行けばよいのか、サインボードが今ひとつわかりにくい。また、ホールの外には若い世代が多く往来している一方で、ホールに入るとかなり年齢層が上がる。ちょっと残念です。 特定の施設の件ではありませんが、モニタリングシートの内容について以下の検討を、お願いします。 シートの1枚目の「公演・講座」の評価項目の入場料金の設定についての部分ですが、この項目のみ5段階評価の文言が「高い～安い」となっています。ここは他の項目と同様に「良い～悪い」で良いと思います。例えばキッズプログラムの公演の時に親子券の設定があり、これは家族で参加しやすいので良い設定と評価できますが。単純に高い、安いの評価ではものさしが明確にできないので評価できません。したがって、この2年間この項目については、ほぼ「普通」のところに「○」をつける結果になりました。あくまで私個人の考えですが、参考までに。
KAAT神奈川芸術劇場プロデュース 「最後のドン・キホーテ THE LAST REMAKE of Don Quixote」／KAATホール	最先端の演劇を作り出すKAATらしい作品で、楽しめた。また、ここから全国ツアーも行われるとのこと、文化創造拠点としてのKAATの面目躍如といったところか。音と映像の演出もおそらく多くの観客に受けるものと思う。こういった新しい試みは、KAATを差別化できる要素であるとともに、神奈川のイメージアップにもつながるものとする。
K A A Tキッズプログラム 2025「鏡の中の鏡」「わたしたちをつなぐたび」／KAAT 中スタジオ	エスカレーター横のデジタル表示ボードは、良いと思います。ホールの外にもう一台設置できると、さらに良いと思います。 トイレがいつも清潔に保たれていて好感が持てる。
KAAT 神奈川芸術劇場プロデュース 「未練の幽霊と怪物 —『珊瑚』『円山町』—」／KAAT 大スタジオ	トイレがいつも清潔に保たれていて好感が持てる。
KAAT カナガワ・ツアー・プロジェクト 第三弾「帰ってきた冒険者たち～闇に落ちたカナガワを救え！」／KAAT 中スタジオ	今回も KAAT1 階のフロアに西遊記をテーマにしたバルーンアート作品？が設置され、ライトアップされていた。入口から関心を盛り上げる工夫は前回もそうだったが、好ましい。小劇場での上演で、舞台が近く、1時間45分の公演は休憩なしで続く。（隣の年配の方は中座されたが、その後後ろの席にいるのを発見。人によっては休憩も必要かも。）7時から舞台が始まってアフタートーク終了は9時過ぎだった。それにしても、月曜日の夜、しかも2月で寒いと言うこともあってか、日本大通り駅から大桟橋方面、山下公園のあたりもかなり閑散としている。KAAT が入るビルの1階にあるレストラ

公演名／会場	ご意見
	ンも、入退場の際に見ただけだが、一人も客がいなかった。（時間帯のせいかもしれませんが、大丈夫でしょうか。）
	いつもながらトイレが清潔に保たれていて好感が持てる。
ダニエル・オッテン ザマー クラリネット・トリ オ・アンソロジー／ 音楽堂	音楽堂のトイレ混雑は今回は特に問題なかった。一方で、古典から現代の作品まで、非常によく考えられたプログラムで、聞きごたえのある演奏だったので、客の入り気がなった。本日上質の舞台を鑑賞した観客は大変満足したのではないかと思われ、それがスタンディングオベーションにもつながっていると思うが、せっかくの公演にもう少し誘客があったらと残念に思う。
音楽堂ヘリテージ・ コンサート ジャン＝エフラム・ バヴゼ ピアノリサ イタル オール・ラ ヴェル・プログラム ／音楽堂	音楽堂の響きを最大限に生かしたプログラムと思う。確かに3時間は長いものの、ラヴェルの世界を堪能するまたとない機会であり、観客の満足度も高かったと思われる。国際的にもトップクラスのピアニストを招へいできるネットワークやノウハウも素晴らしい。
音楽堂ヘリテージ・ コンサート ナタリー・デセイ & フィリップ・カサー ル デュオリサイタ ル／音楽堂	前々から気になっていたが、天井仕上げの練り付け材が剥げて、波板状になってきている。短期間で落下の恐れはないと思われるが、舞台照明が天井をなめるように照らすと、劣化状況が見えてしまう。対応としては、実際に剥離をしているのかどうかの確認と剥離しているのであればその状態を早期に調査する必要であると考え。いずれ、仕上げだけが垂れ下がってしまう懸念が想定される。
第58回 音楽堂 クリ スマス音楽会 ヘンデル「メサイア」 全曲演奏会／音楽堂	音楽堂では、いつも思うことだが、トイレには課題が残る。今回も、特に女性トイレは長蛇の列で、隣の青少年センター？まで出向いて行った。並ぶ客だけでなく、誘導するスタッフにも負荷がかかっているように思われる。なお、和式のトイレがいくつかあるが、こちらは不人気で誰が使うのだろうと思っていたが、今回、お着物をお召の観客もいらっしゃったので必要なのだと得心した。なお、お菓子やパンなどの販売も盛況だった。 ・県立音楽堂のバリアフリーについて 現状、不便だなど思うのは、2階への移動手段が階段のみ（1階入口からも含む）である事と女性用トイレが1階にない事です。例えば、1階の入口からの階段部分の一部に後付けのスロープを設置するのはどうでしょうか。（すみだトリフォニーホールに設置してあるのを見て、とても良いなと思いました。）

V 自由意見

公演名／会場	ご意見
藤沢市民オペラ 連 携事業 オペラシリ ーズ モーツァルト	素晴らしい公演で、堪能した。音響のよい施設があり、それを最大限活かしているからこそ、こういった上質な演奏が可能となることを、改めて高く評価したい。ただ、今回は、少し誘客に課題が見えたように思う。（このところ暑すぎたからでしょうか？）

公演名／会場	ご意見
オペラ《羊飼いの王様》全2幕（会場：藤沢市民会館）	より積極的に戦略的なマーケティングを期待したい。（逆に観客が入りすぎるとトイレが混雑するというジレンマはありますが・・・）
C × JAZZ 壺阪健登 × デューク・エリントン／県民ホール （会場：ラゾーナ川崎 プラザソル）	C×シリーズはこれまでのバロック、バッハなどとても素晴らしい企画で楽しめる公演シリーズだが、今回のジャズも初めての試みながら、聴きごたえのある素晴らしい公演だった。観客も、壺阪トークに笑いが起きたり、演奏後はスタンディングオベーションもあるなど、とてもあたたかな雰囲気だった。クラシックとはちょっと異なる客層が来ているように思えた。こういった新しい試みは企画その他での苦労があるかと思うが、文化や芸術の幅を広げる意味でとても重要である。今後の展開にも大いに期待したい。また、演奏後のサイン会では、CDやLPを買わなくても、パンフレットにサインするという事で、ジャズを楽しむ、観客とのつながりを大切にするというアーティストの姿勢がはっきりわかり、将来の顧客開拓につながるものと強く思う。（今時LP？と思ったが、これは記念品、グッズと言う意味と理解できた。推し活、でしょうか。）
C × Baroque 大塚直哉が誘うバロックの世界 Vol.5 コンチェルトとソナタ〜バロックの申し子たちの成長とその先／県民ホール （会場：横浜みなとみらいホール 小ホール）	県民ホールは、みなとみらいの商業施設の中にあり、駅からもすぐという好立地で、音響もよく、海を臨むことができる素晴らしいホールである。ただ、今回の公演でもそうだが、多くの若年世代の人々にぎわう街中で、ホールに向かうほど人流が少なくなり、観客は（外の人に比べ）年齢層が高い。他ではめったに見られないような独創的かつ良質な公演だったし、実際ほぼ満席であったので、結果としてはよかったとはいえ、せっかくの公演をホールの外にいる人たちにも周知、体験してもらいたいと切に思うところです。 ・県民ホール、文化財団、県文化課のみなさんへ 2024年の4月からスタートした、公募委員としてのモニタリングですが、今回のプログラムをもちまして、すべて終了となりました。この2年間、様々なジャンルのプログラムに触れる機会をいただき、感謝しております。今後は、折にふれ、各施設でのプログラムに参加したいと思っています。新しい県民ホールは、これからご苦勞が多いとは思いますが、素晴らしい施設ができる事をお祈りしております。ほんとうにありがとうございました。 これまで神奈川県民ホールのプログラムとして実施されてきているが、今後も音楽堂のプログラムに引き継ぐなどということも考えられないか。
KAAT神奈川芸術劇場プロデュース 「最後のドン・キホーテ THE LAST REMAKE of Don Quixote」／KAATホール	こういった斬新な演劇を可能とする劇場であることを、改めて高く評価したい。ただ、時間帯はこれでよかったのか。他に選択肢はなさそうとは思うものの、歳をとって体力の衰えを感じる観客としては、マチネにあればよかったと後悔したところです。 ・もう少し客席を増やす工夫ができなかったらどうか。 ・再演が期待される作品となっているように思う。
KAAT 神奈川芸術劇場プロデュース	・KAATの皆さんへ 2024年の4月からスタートした公募委員としてのモニタリングですが、「KAAT」

公演名／会場	ご意見
「未練の幽霊と怪物 ー『珊瑚』『円山町』 ー」／KAAT 大スタ ジオ	については今回が最期になります。演劇初心者の私にとって、この2年間、様々なプログラムに触れる機会をいただき感謝しております。毎回提出していましたが、モニタリングシートについては、素人感覚の内容で申し訳なく思っています。モニタリングを通じて、芸術監督の長塚さん、支配人の堀内さんをはじめ多くのスタッフの方々が丁寧に自信を持って観客の方をお迎えしていることは十分に感じ取る事ができました。本当にありがとうございました。 旅公演が実現できていることは望ましい。兵庫中ホール、りゅーとぴあ劇場での公演ということだが、やや器が大きいことが気がかりではある。
KAATEXHIBITION 2025 大小島真木展 あなたの胞衣はどこに埋まっていますか?／KAAT中スタジオ	・もう少し客席を増やす工夫ができなかっただろうか。 ・再演が期待される作品となっているように思う。
KAAT カナガワ・ツアー・プロジェクト 第三弾「帰ってきた冒険者たち～闇に落ちたカナガワを救え！」／KAAT 中スタジオ	演劇のコアファンでなくても十分楽しめる軽妙で敷居の高くない舞台と思う（その割にはやや値段が高いか）。KAAT カナガワ・ツアー・プロジェクトも定着してきた感じがする。4年前に始まった同シリーズだが、新作も含め継続していくことで明らかに固定客がついてきたように思われる。ぜひ、こういった試みで県立劇場の存在価値を高めていってほしい。 次回公演が期待される。
ダニエル・オッテン ザマー クラリネット・トリ オ・アンソロジー／ 音楽堂	素晴らしい公演で、堪能した。音響のよい施設があり、それを最大限活かしているからこそ、こういった上質な演奏が可能となることを、改めて高く評価したい。ただ、今回は、少し誘客に課題が見えたように思う。（このところ暑すぎたからでしょうか？）より積極的で戦略的なマーケティングを期待したい。（逆に観客が入りすぎるとトイレが混雑するというジレンマはありますが・・・）
紅葉坂プロジェクト Vol.4／音楽堂	紅葉坂プログラムは、ワークインプログレスと本公演でひとつの演目と考えるとモニタリングにおいても、本公演のみではなく、ワークインプログレスからの参加が望ましいと思います。可能であれば、次年度からは考慮をお願いします。
音楽堂ヘリテージ・ コンサート ジャン＝エフラム・ バヴゼ ピアノリサ イタル オール・ラ ヴェル・プログラム ／音楽堂	素晴らしい公演で、堪能した。音響のよい施設があり、それを最大限活かしているからこそ、こういった上質な演奏が可能となることを、改めて高く評価したい。ただ、今回は、少し誘客に課題が見えたように思う。（このところ暑すぎたからでしょうか？）より積極的で戦略的なマーケティングを期待したい。（逆に観客が入りすぎるとトイレが混雑するというジレンマはありますが・・・）
音楽堂ヘリテージ・ コンサート	レギュラー（定期的）で前川建築を愛でるツアープログラムを実施してはどうか。できれば図書館、青少年文化センターと連携して実施することが望ましい。

公演名／会場	ご意見
ナタリー・デセイ & フィリップ・カサー ル デュオリサイタル／音楽堂	
第 58 回音楽堂クリスマス音楽会 ヘンデル「メサイア」 全曲演奏会／音楽堂	素晴らしい公演で、堪能した。まず、これだけ音響のよい施設があることを改めて大切にすべきと思う。また、高齢化著しいクラシックの古楽参加者／観客に、高校生を段階的に巻き込んでいくプロジェクトが着実に進展していることは本当に素晴らしいことと思う。ただ、歌う側だけでなく、それを鑑賞する側にも若い世代を誘客することについても、より一層進めて行ってほしい。
	・県立音楽堂の皆さんへ 2024年の4月からスタートした公募委員としてのモニタリングですが、「県立音楽堂」については今回が最期になります。様々なプログラムに触れる機会をいただき感謝しております。毎回提出していましたが、モニタリングシートについては、素人感覚の内容で申し訳なく思っています。今後は、スケジュールを確認して時々音楽堂に伺いたいと思います。本当にありがとうございました。